



Since 2015

筑女ネパール
プロジェクト現代社会学部
藤原ゼミin
Nepal

Miracle Story

ミラクル体験記

inネパール



もともとボランティア活動に参加する学生が多い筑女。2015年に起きたネパール大地震に関しても復興教育支援のため訪問活動を続けていますが、実はこの「筑女ネパールプロジェクト」では、さらにもう一步踏み込んだ活動も行っています。「単に訪問し、数日間活動して帰るだけでは足りない。継続的な支援こそが大切」という考えから、ネパール支援活動を現代社会学部の学びに取り入れ、支援のための資金集めも学生たちの力でこなしているのです。夏休みや春休みに訪問する現地での様子を中心に、筑女ならではのプロジェクトの中身についてご紹介します。

2015 4月 ネパール大地震発生(4月25日)

5月 「ネパール大地震復興教育支援プロジェクト」準備

6月 上記プロジェクト発足(6月1日)募金活動開始

8月 第1回ネパール訪問(被災地調査:藤原先生のみ)

2016 2月 第2回ネパール訪問活動(教員1名、学生8名)※7校での文房具手渡し、被災地の現状を調査

8月 第3回ネパール訪問活動(教員1名、学生12名)※5校での文房具手渡し、被災地で校舎建設を開始

10月 学園祭でネパール雑貨販売、募金活動

2017 2月 第4回ネパール訪問活動(教員1名、学生11名)※6校での文房具手渡し、被災地の校舎完成オープニングセレモニー

4月 藤原先生の「ソーシャルビジネス」ゼミ開講(ネパールグッズの販売開始)

8月 第5回ネパール訪問活動(教員1名、学生9名)※6校での文房具手渡し、新たな校舎建設地視察

2018 2月 第6回ネパール訪問活動(教員1名、学生11名)※6校での文房具手渡し被災地で2校目の校舎建設を開始

ネパール支援と
ソーシャルビジネスの
実践教育について現代社会学部 現代社会学科
藤原 隆信 教授

学生時代にヒッチハイクで各国を旅した際に立ち寄ったネパール。そこで物乞いをする子どもたちの姿を目の当たりにしたことがきっかけで帰国後に始めたのが、ネパールの教育支援でした。それ以来、大学教員になってからも文房具の寄贈と校舎建設を中心とした活動を続け、既に20年以上になります。そんな中起きたネパール大地震。中川学長(現在のアドバイザー)もあり、すぐにプロジェクトを立ち上げ、学生と一緒に被災地の学校訪問や校舎の再建を急ピッチで進めました。初年度は募金や寄付金で支援を行いましたが、どん

な大規模災害でも時間とともに人々の関心は薄れ、募金や寄付金は集まらなくなります。そこで継続的な支援ができるよう、現代社会学部らしく「ソーシャルビジネス」と結びつけました。校舎建設費用を集めるという目的に加え、社会的地位が低く教育の機会すら与えられないことも多いネパール人女性の自立支援も視野に入れたビジネスを考え、成功させるべく、ゼミの学生と共に他に類を見ない実践的な授業と活動を行っています。

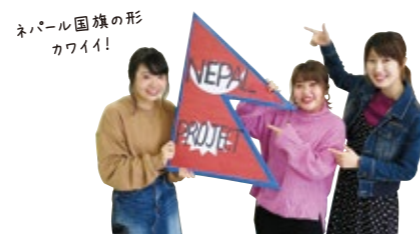


01 Preparation -準備編-

募金活動から文房具の用意まで。

2015年4月25日、ネパールでマグニチュード7.8の大地震が発生し、ネパール全土で多くの学校が倒壊。8,000人以上が亡くなり、32,000以上の教室が使えなくなりました。この報を受け、もともとネパールの教育支援に携わっていた現代社会学部の藤原隆信先生を中心に、筑紫女学園大学のネパール大地震復興教育支援プロジェクトが立ち上がりました。まずは学生の中からプロジェクト参加メンバーを募り、被災校舎再建のための寄付を広く呼びかけ、同時に募金活動を実施。さらに、藤原先生からネパールと支援活動に関する基礎知識を学びながら、現地の生徒たちに手渡す文房具の仕分けも

行っていました。持参する文房具はノート、鉛筆など計2,458点。これらをメンバー全員で分担し現地へ運ぶので、各自スーツケースの半分以上を文房具が占領。そこに現地での着替えなど2週間分の旅の装備が加わるため、かなりの重量です。こうして、地震から約10ヵ月後の2016年2月、学生8名と藤原先生による2回目のネパール訪問が行われました。その後も約半年おきに、プロジェクトメンバーを募り、資金集めの募金や物品販売、それから事前学習、文房具の準備などを経て、ネパールを訪れる活動が続けられています。



ネパール国旗の形
カワイイ!



ネパール集会

出発の約1ヵ月前から毎週開かれる「ネパール集会」では、ネパールに関する基礎知識や現地での活動について藤原先生がレクチャーしてくれます。

ネパール雑貨の販売

学内行事や地域イベントに出店。現地訪問時に仕入れたアクセサリーやバッグなど、ネパール雑貨を売って活動資金に充てます。



文房具の仕分け作業

出発まであと2週間となる頃、文具メーカーや一般企業、団体、個人など、プロジェクトに賛同してくださった方々から届いた支援用文房具を、訪問するメンバーで仕分けします。中身はノート、鉛筆、消しゴム、ボールペンなど。



いよいよ
ネパールへ出発!



藤原ゼミの実践教育

ネパール訪問前には ニーズ調査やテスト販売も。

藤原ゼミのテーマは、「ソーシャルビジネス」。現地で仕入れたネパールグッズを販売し、その収益でネパール支援を目指します。いかに効率的に売って収益を上げるか、経営的かつ営業目線で考えて動く必要があります。そのため、ネパール訪問

プレ学園祭でテスト販売

学内でアンケート調査を行ったり、人が集まる場で試験的にグッズを販売したりして動向を見ます。

(=商品買い付け)前には、限られた資金を無駄にしないよう、ターゲット層に売れる商品とはどのようなものなのか、色や柄の流行りは?といったことを把握するニーズ調査やテスト販売といったマーケティングも行なっています。



黄金の仏像!



02 Visit -訪問編-

未知なことだらけの2週間

カルチャーショック

福岡空港から乗り継ぎ含めて10時間ほどで、首都カトマンズのトリバン国際空港へ到着。国際空港と言っても滑走路は1本だけ。ターミナルビルもこぢんまりとしていて、ここで初めてネパールという国の現状に気づきます。ホテルへ移動する際も、バイクや車で大渋滞なのに信号はなく道はガタガタ。カオス状態を目の当たりにしながらホテルに着くと、さらに状況を理解するのです。まず、停電が日常茶飯事というネパールでは、室内も薄暗くドライヤーなどの電気製品もほぼ役に立ちません。ただ、スマホ類の充電はろうじて可能で、ホテルや

飲食店などWi-Fiのある場所も意外とあるので、少し安心感を覚えます。また、断水もしばしば。水はなんとか出ても、給湯はほとんど期待できず、日中、太陽の熱で温めた水を浴びるのが風邪をひかない最善策なのです。そして言葉。ネパールのお店などではほぼ英語が通じるのですが、シャイな日本人学生は会話一つにドキドキ。必要以上に緊張してしまいます。このように、日本で当たり前の生活がネパールでは非日常。カルチャーショックから、落ち込んだり体調を崩したりすることもあります。自然と慣れていくから不思議です。



ネパールの食事情

ネパールはカレーの国。野菜と豆を使ったカレー「ダルバートタルカリ」などを毎日のように食べています。素材の旨みを感じられて日本人好みです。



カトマンズでの朝食は
オシャレなカフェで!

Schedule スケジュール

- 1 day 空路で首都カトマンズに到着
- 2 day ポカラへバス移動
- 3 day 1校目小学校訪問(文房具手渡し)
- 4 day 休養日
- 5 day 2校目小学校訪問(文房具手渡し)



- 6 day 3校目小学校訪問(文房具手渡し)
- 7 day 4校目小学校訪問(文房具手渡し)
- 8 day 休養日
- 9 day ラムサハ高校訪問(文房具手渡し、校舎建設作業)



- 10 day ラムサハ高校訪問(校舎建設作業)
- 11 day カトマンズへバス移動
- 12 day カトマンズ本願寺訪問
- 13 day 福岡へ向けてカトマンズを出発



ネパール料理!
とっても美味しかった!

02 Visit - 訪問編 -

現地での活動

カトマンズで1泊した後は、ヒマラヤ山脈を望むポカラという街へ移動します。カトマンズと比べると田舎で、大きな湖のある穏やかな街です。これから約10日間、ポカラを拠点に5~6箇所の学校を訪問する活動を行うのです。

日本を基準に考えると、5~6校訪問なんて1日か2日で済むように思えますが、ここでは一つの学校までトラックや徒歩で片道3時間~6時間。中には、ほとんど山登りに近い日もあり、1日1~2校訪ねるのが精一杯です。

学校に到着すると、たいいて生徒さんたちの笑顔に迎えられ、続いて先生方にその学校の現状などをお聞きます。

このプロジェクトで最初に校舎建設を行った「ラムサハ高校」など、特に地震被害が大きかった地域の学校をはじめ、訪問するのはいずれも険しい山間にある学校がほとんど。どこも3歳から16歳くらいまでが通う公立校です。国やその地域が教育環境を整える義務を負っているはずですが、政情が不安定だったり、財政が厳しかったりと、なかなかこれら山間部の学校まで目が行き届かないのが現実。ユニセフによる援助や今回のプロジェクトのような海外からの支援に助けられている学校が少なくないようです。



度重なる余震と雨季の大雨による土砂崩れで大きな被害が出たラムレ村。



子どもたちに文房具を手渡し、一緒に遊んだ後は記念撮影。人懐っこい笑顔にいやされる。(ゴルカ郡ラムサハ中学校)



行政の手が及んでいない山あいの学校が目的地なので、車道が整備されておらず山道を数時間かけて歩いて行くことも。



日本からは文房具のほか、風船や折り紙なども持参。子どもたちと一緒に遊びます。



しかし、どの学校の子どもたちも、不十分な環境の中でもキラキラした瞳で一生涯懸命に生きています。文房具を手渡すと「Thank you」と笑顔で受け取り、大事そうに持ち帰る姿に心を打たれます。何もかも恵まれ過ぎている国で育ってきた自分が、少し恥ずかしいような感覚になりながら、シャボン玉や折り紙などで子どもたちと一緒に遊び、言葉が通じずともお互い笑顔で話し、名残惜しくもお別れです。どの学校でも、元気をたっぷり分けてもらうので、長い帰路も苦ではありません。いろんな思いと共に、また彼らに会いに来たいという気持ちが胸にふつふつと湧き上がってくるのです。

ネパール学校建設活動について

-About the activities of Nepal school construction-

2015年の大地震発生直後から年に2回のペースで現地を訪問している筑女ネパールプロジェクト。政府による復興の動きは遅々として進まず、特に都市から離れた場所は支援が後回しにされやすいため、それらの学校を中心に訪問し、再建の必要性の高い学校から順番に新校舎を建設しています。校

舎建設にかかる費用はおおよそ300万円。1校目のラムサハ高校は寄付金等で捻出しましたが、2校目からは、寄付金だけでなく藤原ゼミのソーシャルビジネスでも資金作り。紆余曲折ありましたが2018年2月、なんとか工事着手に必要な150万円を集め、現地の建設業者に支払っていただくことができました。

2015.8



震災の4ヵ月後に訪問調査した時のラムサハ高校(ゴルカ郡)。完全に屋根が崩落した校舎や壁に亀裂が入った校舎がそのまま残されていました。

2016.2



震災から10ヵ月が経過したが、校舎は8月の訪問時と同じ状態。政府からの支援はなく、子ども達の多くは仮設校舎で勉強していました。

2016.8



左写真のように数ヵ月放置されていた倒壊校舎が撤去され更地となったゴルカ郡のラムサハ高校。筑女のプロジェクトによる新校舎建設を開始。

2017.2



ラムサハ高校新校舎が完成。現地で行われた除幕式に、筑紫学園大学の学長とともにプロジェクトメンバーも参加し、再出発を祝いました。

02 Visit - 訪問編 -

休養日の過ごし方

ポカラでは、1日か2日の休養日があり、現地の観光名所も訪れます。無数のコウモリのいる洞窟「バットケイブ」を探検したり、川の水が岩を侵食してユニークな形の滝になっている「パタレ・チャンゴ」などを見たり、半日は観光客気分でのんびり過ごします。

その後ゲストハウスへ戻ると、近所を巡って、帰国後日本で売れそうな雑貨やアクセサリーの物色です。継続的な支援を行うため、これらの販売収入はとても重要。より多く、より高く買ってもらえるものはどんな商品か？色違いやサイズ違いなど、どれくらい揃えるべきか？自分のための買い物とは視点が違うので、ショッピングといえども疲労困憊…。

また帰国直前のカトマンズでも、同じく商品の仕入れを行い、最終日だけは日本食レストランへ。約2週間ぶりのカレー以外の食事、そして今日で最後…。全員何とも言えない気持ちになりながら、ネパールの日々を振り返ります。

ポカラの朝ごはん

ポカラのゲストハウスでの朝食は、トースト&ゆで卵とシンプルだけど、外だから気持ちよく、つい食べ過ぎてしまいます。



民族衣装
似合うかな!?



ネパール観光

「バットケイブ」は懐中電灯だけを頼りに真っ暗闇を進むので、かなりスリリング。



どれにしよう…

帰国後のための買い物

まとめ買いした、地元の女性たちが製造しているエコバッグの検品をしたり、サリーや雑貨を物色したり、休養日も大忙し。



03 After returning - 帰国後編 -

次なる支援に向けて活動は続く。

日本とはまったく異なる生活環境、そして各学校で出会ったネパールの子どもの姿を通して、メンバーの多くが、自分の家族への感謝の気持ち、日本で生まれ育ったことのありがたさなど、さまざまな思いを胸にしながら2週間の活動を終えて帰国します。

学生たちはその後、大学内で開かれるネパール訪問の報告会に出席し、さらに滞在中の活動や感想をまとめたレポートを提出。実際に聞きしてきた現地の状況や、その場で感じた素直な思いを文章にすることで、多くの人にネパールの現状を知ってもらい、今後の支援活動につなげ

ていきます。被災地支援と同時に、異文化の中で視野が広がり、また自分自身と向き合いながら未経験の学びにも挑戦できるネパールプロジェクトは、これからも末長く継承していきたい筑女の財産の一つです。

ネパール雑貨の販売

現地で買ってきた雑貨やアクセサリーは、学園祭やイベントなどで販売し、ネパールでの校舎建設資金に充てます。



継続的なネパール支援の鍵となる「ソーシャルビジネス」

ネパールプロジェクトと結びついた「筑女流ソーシャルビジネス」の目的は、ビジネスを通じて、ネパールの子どもたちや女性たちの支援を行うこと。具体的には教育支援として校舎を再建し、女性の自立支援として彼女たちが作るネパールグッズを購入し、日本で販売することが目標です。しかし学生たちは全員、ビジネス未経験。期間も限られているので、効率よく進める

ため、プロの助言も得られる「ビジネスチャレンジ事業」に挑戦しました。その結果、一つのビジネスモデルが完成。自らネパールグッズを売るほか、委託販売にまで販路を広げたり、SNSを活用して広報活動を行ったり、多様な実践活動を経験。学生たちはソーシャルビジネスの「面白さ」と「難しさ」を実感しました。



ビズチャレにも参加!

大学ネットワークふくおか主催の「ビジネスチャレンジ事業」の事前セミナーでは、起業の際の心構えやビジネスモデルの作り方を学び、その後の書類審査・プレゼン審査で合格!2017年度の助成事業に採択されました。



藤原ゼミの授業内容

2017

4月 ゼミ開始。目標は、「ソーシャルビジネス」で資金を集めて、ネパールに2校目の校舎を建てよう!

5月 大学ネットワークふくおか主催「ビジネスチャレンジ事業(ビズチャレ)」に挑戦。



藤原ゼミとして参加した「ビズチャレ」でリーダーを務めることになり大きなプレッシャーでしたが、毎回の授業で他の大学生には絶対に負けない活動をしている自信がありました。

6月 「ビジネスチャレンジ事業」二次選考プレゼン、採択決定!

7月 プレ学園祭でネパールグッズの販売。

8月 ゼミメンバーが第5回ネパール訪問活動に参加し、商品調達。



ゼミでどんな商品を仕入れるか事前リサーチを行なったものの、いざ買い付けしてみると、ちょっと色違いでどれを選ぶべきかなど、かなり悩みました。

9月 現地調達してきた商品を仕分け＆値付け。

10月 ネパールグッズの販売開始。学園祭や各種イベントでの販売、飲食店・雑貨店など協力店舗での委託販売。

2018

2月 第6回ネパール訪問活動で、初めてのゼミとしての訪問を行い、2校目の建設に着手。



ここまでで、建設にかかる費用の半分を集めることができたので、それを現地の業者に支払って校舎の建設工事を始めてもらう契約を結びました。

2月 「ビジネスチャレンジ事業」の成果発表会にて、藤原ゼミの取り組みが「優秀活動賞」を受賞!

ゼミの活動はfacebookで随時更新中!



www.facebook.com/chikujo.fujiwara/

